

保育所の関係はここ！



役場1階子ども課  
保育係 ☎内138

こども医療費の関係はここ！



役場1階子ども課  
児童係 ☎内113

子育て支援の関係はここ！



役場1階子ども課  
子育て支援係 ☎内139

障害手帳と障害福祉  
サービスの関係はここ！



役場1階福祉課  
障害福祉係 ☎内117

幼稚園、小・中学校の関係はここ！



役場5階学校教育課  
学務係 ☎内531

どこに聞けば  
いいのかしら？



# ばぶよち ぴょん！

～子育て支援のページ～  
Vol.7

今回は、子育てに関わる役場内の担当を紹介します。  
こんなときはどこに聞けばよいの？ と思ったら、まずは役場の担当にご相談ください。ひとりで悩む前に、お気軽にお問い合わせください。



## 毛呂山歴史散歩 第257回 毛呂山の養蚕 と織物工場

平成26年に群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録され、明治時代に日本を支えた遺構が脚光を浴びています。

毛呂山町でも江戸時代から養蚕が行われており、収穫した繭は、農閑期の女性たちが絹や太織に加工して売り出していました。

明治時代になると、春の養蚕（春蚕）が繭、生糸、生絹の生産を行うまでに広まり、明治10年（1877）

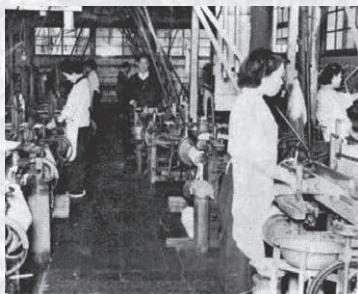
に、温暖飼育法が始まったことで養蚕の技術は急速に発展しました。同じ頃、養蚕改良競進組（競進社）が組織され、埼玉県の各地に伝習場が設置されました。毛呂山町でも、伝習場の最新技術が普及され、地域の産業として更に発展しました。また、明治時代の初めは禁止されていた秋の養蚕（秋蚕）が、

明治11年（1878）には認められ、春秋、年2回の養蚕は農家の大きな収入源となりました。

養蚕に関わったのは農家だけではなく、明治26年（1893）に滝ノ入地区に設立され、後に毛呂本郷金塚に移転した泉合資会社は、絹織物を世界へ輸出していました。同社は、当時の国の重要輸出品である羽二重をはじめとする絹織物を生産し、内国勸業博覧会へ出品する程の優れた工場で、福島県川俣絹と並び、横浜商館を通じてアメリカを中心に海外へ輸出していました。

明治以降、全盛期の毛呂山町には泉合資会社の他にも、50軒をこえる織物工場があり、毛呂山町の地場産業として根付いていました。

この地で生産された絹が、国の代表的な製品として世界へ流通していたことは、地域の誇れる歴史のひとつです。



昭和29年ごろの織物工場の様子